

平成 23 年 10 月

## 東日本大震災支援

### ボランティア活動だより 第 3 号

「3 月 11 日午後 2 時 46 分」の東日本大震災から、7 カ月が過ぎました。

9 月には、台風 12 号の大雨と強風による災害も起こりました。大切ないのちと美しい自然が、なんということでしょう。新たな悲しみが積み重なりました。どこに怒りをぶついたらよいのか、言いようのない激しい憤りと悲しみの気持ちが込み上げ、「どうか、もう終わりにしてください」と、自然と神さまに祈る日々です。

7 カ月が経ち、未曾有の地震・津波による甚大な被害の現実と、原発事故による放射能汚染の危機的状況が明らかになってきました。私たちは改めて、一人一人が協働し、心を一つにして「関西で今できる支援を為す。」と、肝に銘じなければなりません。これからも永く、ともに復興に携わる当事者意識を持ち続けたいものです。亡くなられた方々、いまだ行方不明の方々、避難所暮らしをされている方々、復興支援にあたる方々に、日々心を重ねながら、私たちが今できる支援「訪問カウンセリング」を通して、少しでもつらさや悲しみが和らぎ、困難を乗り越えていける元気と勇気を創りだせるよう、支援活動を続けていきたいと思えます。

さて、私たちのボランティア活動も、ゆっくりですが確かな歩みが始まっています。基礎研修と専門の「クライシスカウンセリング研修」を受けた登録メンバーにより、関西圏へ避難して来られた被災者への「訪問カウンセリング」が始動しています。

今回の台風 12 号による被害を受けられた方々にも心を重ね、お見舞いを申し上げます。今の暮らしは、何が起こるのか全く予測がつきません。だからこそ、私たちは「心をかける」「目をかける」「声をかける」「手をかける」の継続的で協働的な気持ちを大切に、支え合って生きていくことが必要だと思います。そんな思いを胸に、活動の現況と今後の予定をお知らせします。

#### 1. 活動報告（9 月～10 月）

##### (1) 「訪問カウンセリング」広報チラシ・カードを作製（総務班）

訪問カウンセリングの提供活動を行った訪問班責任者より、行政の担当者及び被災者の方々に、直接手渡しできる分かりやすいチラシなどが必要との意見があり、全員一致で作成を決定。業者の多大な協力も得て、素速く安価に、思いのこもったチラシとカード各 2000 部を作成した。9 月初頭から訪問班活動の周知徹底と展開に活用、訪問先から

送付依頼もあり、10月にはさらに各2000部を増刷した。※必要な方は支部事務局まで。

## (2) 主な活動推進内容（訪問班）

### ■大阪府

- ・9月5日、吹田市に菊地支部長と訪問班責任者竹本(潤)さんが訪問⇒訪問カウンセリングの趣旨、長期支援について説明。市の理解・協力が得られ、チラシ・カードの被災者への直接配布が実現した。
- ・9月13日 活動依頼文（支部長文書）・チラシ・カードの3点セットを、府内市町村にメール便で送付。また、公共施設にチラシを配布
- ・9月30日 菊地支部長と竹本(潤)さんが、大阪市および大阪労働局を訪問。大阪市から300枚、労働局から200枚のチラシ送付依頼を受け、特に労働局を通じて、各ハローワークでのチラシ設置の運びとなった。

### ・「9・23 大阪から元気を東北に届けようチャリティバザール」に参加

9月23日、マイドーム大阪で被災者のためのイベントが開催され（主催：大阪市社会福祉協議会ほか）、野出副支部長の尽力で支部が出展した。当日は、活動責任者らが参加。被災者の方に直接チラシを配布するとともに、今の生活の様子や今後の不安などについてお話を伺い、改めて息の永い支援の大切さを実感した一日となった。

### ・大阪府ホームページにリンク設定（電話相談、訪問カウンセリング案内）

[ホーム](#) > [府政運営・市町村](#) > [府政情報](#) > [「東日本大震災」にかかる被災地の支援について](#) > 被災者の方へ（受け入れ等のご案内） > その他相談窓口のご案内

[http://www.pref.osaka.jp/koho/tohoku\\_jishin/ukeire.html#sonota-sodan](http://www.pref.osaka.jp/koho/tohoku_jishin/ukeire.html#sonota-sodan)

### ■京都府

#### ・「福島被災者の集い」との連携

福島県からの避難者受け入れが積極的な京都では、濱田さんの情報により、9月29日、160人の被災者を受け入れている伏見区の官舎に、田中(晶)さんが訪問。母子で避難している方など、家族と離れて大きな不安やストレスを抱えておられ、訪問カウンセリングの要望を受けた。まずは、10月6日に田中さんほか4人が訪問。以降、毎週木曜午後の集いの場に継続訪問することとなった。

⇒継続メンバーを募集中。希望者は支部事務局に問い合わせを。

### ■兵庫県

県内市町に対し、「訪問カウンセリング」活動提供を電話で案内中。依頼があればチラシ・カードを送付の予定。

神戸市、西宮市、尼崎市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、明石市、加古川市、姫路市。※伊丹、宝塚、加古川市は避難者も少なく、支援対応は市で実施。

### (3) 専門研修「クライシスカウンセリング」開催（研修班）

5月・7月の基礎研修に続き、9月には専門研修を実施し、68人が参加した。

※以下、総務班・岩岡由香さんのレポート

9月22日（木）午後6時30分より開催された「東日本大震災ボランティア専門研修」は、支部長・菊地節子さんによる「クライシスカウンセリング」であった。シニアコース講座では必修科目の同講義が、今回の被災者支援に携わるメンバーのために再構築され、より焦点を絞った緊急の研修として行われた。

一般的なクライシスカウンセリングについての解説を一通り受けたのち、グループで事例検討し、各々全体への報告を行った。与えられたテーマに論点の違いはあったものの、そのどれもが私たち震災ボランティアが肝に銘じ、腹を据えて、決して見逃すことなく、忘れることなく、抱えたまま被災者に向かうべき心の有り様が述べられたものであった。もはやカウンセリングのテクニックというよりは「人が生きる」ことに向き合うカウンセラーの存在、かかわらせていただくために心がけたいポイントだけが、ただ述べられている。そこには、「人が生きる」ことを支え得るのは、どんなに不器用であっても「人」でしかないことを痛感させられる。不器用を言い訳にせず、どれだけ真摯にその気持ちを共有できるのか。生きる力は、被災者とともに我々ボランティアにも共有されるものであるように感じられた（岩岡）

### (4) 訪問カウンセリング実施報告(訪問班)

訪問カウンセリングは、2人1組で依頼者の住む現地に出向いて50分間面接を行い、面接記録と実施報告を事務局に提出する。

受付窓口は、支部事務局 06-4963-2357(矢野、菊地、八木、野出)。事務局は、事案について登録ボランティアにメール配信し、担当者を募集・決定する。訪問日時・場所の依頼者への連絡は、すべて事務局を通して行われる。担当者は個人連絡先は教えず、依頼者と直接連絡はとらない。担当者は交通費等の支給なし。ボランティア保険が適用される。

現在2件が継続中。

- ① 9月12日～大阪 Aさん 主訴：心身の不適応と避難生活の苦悩
- ② 9月29日～大阪 Bさん 主訴：生活環境への不適応、現在・将来の苦悩
- ③ 10月6日～京都 検討中

### (5) 総務・広報班の拡大会議開催（総務班）

※以下は、能網恵子さんと玉鉾裕子さんのレポート

9月22日、総務・広報班の顔合わせが行われた。私はドキドキの参加だった。自己紹介・参加動機の話し合いのあと、活動内容と役割などを皆で共有した。短い時間であったが、

参加して皆さんの思いを聞け、やれる事をしようと思った（能網）

このチームで、総務は活動全体の記録や資料保管、広報は「活動だより」や「らぼーる関西」などでの情報発信を担うという。合言葉は「出来る人が出来る時に出来る事を主体的に行っていく」と、舛野さんからお話があった。

メンバーには、今年産業カウンセラーに合格した方、カウンセラー求職中の方など、様々な方が集まっていた。また、震災直後にボランティア参加を希望した、という方もおられれば、阪神・淡路大震災を経験され「しばらくは何も考えられなかった」とお話になった方もおられた。背景は様々だが、ひとつ共通点といえば、「自分に何か出来ることがあるならば、力になりたい」という思いではないだろうか。私たちの活動はまさに今、「何かの力になりたい」という思いを行動に変化させていく時を迎えている。（玉鉾）

## 2. 今後の活動連絡について

現在、各活動班責任者および事務局では、活動報告・情報交換などについてのメール連絡が毎日のように活発に行われています。この中から、各登録メンバーには随時事務局より、訪問カウンセラー募集、活動推進メンバー募集などのメール配信が行われます。

各人の少しずつの努力で、わずかずつながら、ボランティア活動は確実に広がってきています。登録メンバーは、支部ホームページでの活動案内、「震災ボランティア事務局」からのメールの有無をご確認の上、積極的なご協力をお願いいたします。

---

本活動は、主体的・積極的・継続的な支援活動です。皆さんとの共通理解のため、この「活動だより」は、登録会員にメール配信するほか、支部ホームページに掲載。支部会員向け広報誌「らぼーる関西」にもダイジェストを掲載します（次回は11月初旬に配布予定）

本活動へのご意見・ご質問・ご提案などは、支部事務局「震災ボランティア係」まで、メールでどしどしお寄せ下さい。ボランティア活動は、そこから始まります。

E-mail:info@jica-kansai.jp

（文責：総務班）